新年隨想

産学一体の場〝生産と技術〟の成長に憶う

会長　池田　悦治
（大日本塗料KK社長）

曽って音楽について芸術か技術かの論争があったことを覚えている．一体演奏家は芸術家なのか，それとも技術家なのかと云うのであった．結局それは創造性に関して論ぜられていたのだが，同じ作曲によっても演奏家の資性によって万人が万人何等かの個性が表現されるはずであるから，演奏家はやっぱり音楽を創造する芸術家であろう．

あの論争はたしか奇蹟として例外と思はれる一つの作曲の完全同一演奏を想定して音楽演奏技術論を提唱されていたと思う．

私が今こんなことを取り上げて来たのは，原理探究の場としての大学と，その原理を応用してものをつくり出す技術の場である産業界との関係が，あたかも作曲家と演奏家との関係と同じように思えたからである．

学問と云い技術と云いしょせんは一つの idea から出発して，それを原理し技術しそして文化を積んで行く一連の流れである．実に偉大な原理から勝れた技術が産まれ，勝れた技術から更に高邁な原理が産まれている．

生産技術振興協会は，大学の研究を最も効率よく産業界の技術に結びつけ，その技術の水準を高めていって，更にその技術から新しい原理がヒントされるような場をつくる使命をもっているのだから，こゝでこそ文字通り産学が一体となり得る．

新年早々から独りよがりの理屈をこねまわして恐縮ですが，これには私なりの理由をもっています．それはややもすると象牙の塔然たる大学の先生を，その知識として大衆の中に溶けこんでもらいたい一念から〝どんなに立派な作曲でも，演奏されなければけっして大衆の糧にはならないんですよ〟と知ってもらい，せめてある知識を役立たせなければなりませんし，もっと偉大な知識をつくり上げてもらいたい，と思うからです．

それと産業界の皆さんに，もっと大学の研究を広く活用していたゞきたいと思うからです．

研究はたとえそれがどんなに遠大高度のものでありましょうとも，いつかはどこかで，そして誰かによって技術され活用されて人類の文化を積み重ねて行くはずです．その次元において最も高い文化をつくり出すためには，その時に完成されている研究を用いるより他に道はないでしょう．

永遠に進展をつゞけて行く科学文化の世界ですから，待てば必ず今日より進んだ研究が得られるにちがいありません．でも明日の研究では今日の文化を生活する糧にはならないのです．その時々に科学の総力を息吹く社会こそ人類がつくり得る最も幸福な社会ではないでしょうか．

こうして現在の研究成果を今日に恩恵する技術は極めて花々しいものですが，これとは全く別に明日の完成を目指して努力されている研究の仕事はどんなに地味で苦労多いものでしょう．

私達は来る日も来る日も真理の探究に余念のない大学の先生に，限り無く感謝しなければなりませんし，その崇高な努力を学びとらなければなりません．

大学に近づくことは直ちに大学を用いることでもありますが，これと同時に大学の偉大な価値を知ることでもあります．

何事によらず明日への努力こそがその企ての永遠の発展を約束するのです．これを大学の先生に学びとれば技術はまたそれなりの革新を呼びましょう．

〝生産と技術〟を通じてお目見えする研究や技術の発表は，或いはこの機関誌の性格から極く一般的な表現が用いられているかも知れません．それでもまた難解な表現があるかも知れません．希望される人には更に高度な或いは平易な研究説明や技術解明がなされるのです．勿論協会が大学の研究へ橋を架けることによって，又は発表された研究者や技術者との交流を斡旋することによって果されるのです．

この機関誌の編集が大阪大学の生産技術研究会によって担当されていることはまた大きな威力だと思います．それぞれの専門研究家によって選ばれる研究題目は，それがただ単にその研究技術項目として値打ちがあるばかりでなく他の専門研究や技術と相関して一層の意義があるのです．一つの機関誌をまとめて行くところには必ず一つの思想がなければなりませんし，一貫した方針があるはずですから．

随分当り前のことを当り前に長々と申しました．〝生産と技術〟もこゝ迄成長して来たのです．そして機関誌が成長している限り協会も次第に骨格を整えて来ました．

低迷のときにもずっとお見棄てなくこの機関誌を守って下さった大阪大学の先生や，幾多投稿を煩はしました皆さんに心から感謝いたします．機関誌の成長に憶い一言いたしました．